

2026年3月5日

ロータリーにおいて大事なこと

白鳥 政孝



本日の卓話に入る前に63年経
した市原ロータリークラブの
先輩方の興味あるエピソードが
ありますのでこの機会に少し
ずつ話していきます。

1969年—70年度
(昭和44年—45年度)の事
でした。

地区は埼玉県と千葉県とで第357地区をなしていました。この時のガバナーは森田勝彦さん
(千葉クラブ)でした。市原RCは、会員数54名で、会長は酒枝次郎さんの新進気鋭のクラブ
でありました。

年度の始めに森田ガバナーを囲んでの会合が、新装なった京成ホテルで行われました。市原RC
から豪放磊落な川上一之さん、極東石油千葉製油所所長の河合弘海さん、後にガバナーとなった
齋藤 博さん の三人が半袖、開襟のノータイで出席していた。その折に森田ガバナーから「市
原RCの人は、なぜそんな格好で来たのか」と言われたので川上さんが「暑いから」と応え、ガ
バナーは「市原は田舎のクラブだから、まあ一よいでしょう」の問答があり、川上会員は怒っ
た。河合会員はもっと怒った。めちゃくちゃに酔っぱらって帰ってきたそうです。それ以来市原
RCは数年間田舎のクラブと言われつづけたそうです。齋藤博会員曰く「クーラーの効いている部
屋では、他のクラブの出席者は衣冠束帯だったので、市原のノータイ・半袖シャツは目立ってい
た」そうです。

極東石油の所長といえば次の所長である齋藤 信さんについて話します。齋藤会員は旧満州国
からの引揚者でした。例会で齋藤 博会員が、当時、歌声喫茶などで流行していた「北帰行」の
唄の由来を縷々話をしていた時、齋藤 信会員が「その『北帰行』の作詞・作曲した宇田 博さ
んは旅順高校時代の同級生だった」といったのに齋藤 博会員は、「目の前に宇田さんの同級生
がいるとは、世間、いやロータリーの世界は面白い出会いがあるものだ」と驚いたそうです。

「北帰行」の由来は、昭和16年(1941年)宇田さんが本国の一高の受験に失敗し、

独り寂しく失意のうちに旅順へ帰る道中にできた歌だそうです。この歌は加藤登紀子さんや小林 旭さんに歌い継がれています。その後、宇田さんは校内で禁じられていた恋愛が発覚し旅順高校退学させられたそうです。

齋藤 信会員は戦中満州国大連に住んでいて中国人の下男を数人雇っていましたが、敗戦の混乱時に、下男の一人が齋藤家の家族を中国人民衆から庇ってくれたり、便宜を図ってくれたりして助けられたとっていました。その下男は中国共産党のシンパだったそうです。

齋藤 信会員は、国際親善とは国対国ではなく、個人対個人であると卓話でっていました。

さて、本題に入ります。

群れを成して生活する人間は、意思疎通を図るコミュニケーションは大事なことであります。排他的な宗教や民族および政治体制（国家）の違いが、いろいろと紛争を起し、難民を増やし各地で問題を起しています。しかもこの紛争は絶えることがありません。そこで人類は英知をしぼりルールを設けたのですが、残念なことに人間の浅はかな欲望のために互いの

コミュニケーションをなくしています。このような世にあつて、ロータリーが考えるべき大事なことはコミュニケーションの質を上げて話し合うことが大切になります。

これはロータリーのレベルアップにも通じるものがあります。

まず、皆様に問います。

問1 ロータリーを知らない人から「ロータリークラブとはなにか」と聞かれたら一言でいうと何と答えますか。

問2 襟につけているロータリーのピンバッジが発しているメッセージとは何でしょうか。

いくつか挙げてください。

おそらく答えはまちまちであると思います。言い換えれば多様であります。この違いを多様性といえます。私の考え（答え）は最後に述べます。

人間社会の多様性（diversity）について考えてみよう。人間社会は様々な考えをもつ人によって構成されて多様性に富んでいます。この多様性こそが強い社会を作っています。だから多様性を否定してはならないのです。全体主義や独裁体制下の社会や、損得で判断する取引の政治は多様性を否定し、そこには民衆からの知恵生まれません。それどころか恐怖社会となり、社会や政治は混沌とし、停滞します。対話は多様性を重視し、他人の考えを容認します。

そして、民度（政治意識・知識・教養）を高め合います。

民度を高めることは民主主義の質を向上させ、社会を発展させてまいります。

このような社会ではコミュニケーションが活発になり、自由な社会となり、

豊かな文化がはぐくまれます。対話の基本姿勢は相手を尊重し、敬意を表して理解することから始まります。

対話で切磋琢磨し合うと互いに進歩してまいります。そして、相互理解の平和な社会が築かれてきます。いわゆる多様性に根差した強靱な社会が作れていくのです。

ここで動物と人間が違う点を考えてみよう。

動物は自分の体験したことしか未来に活かせません。人間は、違う時代、違う場所に生きた他人の経験をも将来に活かせる術を持っています。「賢者は歴史に学び、愚者は経験に学ぶ」といいます。歴史への思索は社会の発展や人生の糧になり、経営にも役立ちます。

パスカル（フランスの哲学者）は「人間は考える葦である」といっています。人間はひとりでは葦のように弱いですが、考えたり、コミュニケーションを交しながら団結し、知恵を出し合い、道具を作ったりするので他の動物より強くなれるのです。

繰り返して言うと、人間は言葉を持つ動物であり、考えることのできる動物であります。この特性は人間同士がお互いに意思交換ができるのです。この特性を生かしたコミュニケーションには、通常の会話（conversation）、討論（discussion）、ディベート（debate）、対話（dialogue）と分類できます。

本日の話す対話（dialogue）に注目してください。これはお互いがレベルアップする素晴らしいコミュニケーションの方法であります。

対話の特徴は、相手に敬意を表し、同じ目線で真剣に話し合います。相手の考えを拒否しないで自分の考えに取り入れ（容認）てよく考える。その結果今までの自分の考えと違う考えが浮かんでまいります。これが、お互いに向上する大きな原動力となり、進歩、発展する社会となります。今、国際間で対話の必要性が盛んに言われています。独裁者は対話を嫌い、他者の意見に耳を傾けようとしないのです。反対にディベートは、敵・味方に分かれ話す前と後とで、考えが変わった方が負けで勝ち負けの論戦です。

対話には実にたくさんの有益な特徴があります。対話を考えていくとロータリーの基本姿勢と同じであることが分かってきます。

対話を正しく身につけることが社会生活を営む上において大事であることが分かります。同じ目線で対等（イーブン）に話し合う社会は、素晴らしい世界です。それは考え方の違う人と対話を重ねることで、お互いが自分の考えをよりよい方へ変えてくれるからです。他人の言に謙虚に、真剣に、素直に耳を傾けることから、お互いに自分の考えに相手の良い考えが付け加えられ互いにより深く相手を理解するようになります。これが対話の大きな特徴であります。また対話

する者同士のところに強い友情（fellowship）が生まれます。ロータリーの言う Fellowship はこの対話から生まれるのです。

このような対話の姿勢や、こころのあり様は、自己制御で相手を思いやるロータリーの「超我の奉仕」 ” Service above self” そのものであります。「戦争・暴力の反対語は平和でなく対話です」社会科学 経済学博士 暉峻淑子 と言えます。世界平和の第一歩は対話から始まるのです。ロータリーの「例会場は人生の道場」であるといわれるのは、このような対話がクラブ内で行われるからです。心すべきは、どんな場合でも対人関係の基本は対等（イーブン）の間柄でなければならないことです。

私たちは、この対話の姿勢を、まず家庭に経営に社会において、あらゆる場面で対話の精神を試みるならば素晴らしい効果を生みます。

ロータリーはロータリーの戦略において中核的価値観があります、親睦・奉仕・高潔性・多様性・リーダーシップの価値観です。世界のロータリアンに共通の価値観であります。ロータリアンやクラブは5つの価値観をブラッシュアップし、ロータリーのDNAとして連綿として伝えていかなければならない。日ごろのロータリー運動にお基本はこの中核的価値観のブラッシュアップ（磨き上げ）です。

では冒頭の私の応えであります。

ロータリーとは人間性の向上を志す人が集い、親睦活動を通して研鑽し合う団体であり、世のため、人のために尽くさんと励んでいる人たちの集まりです。世界中に同志が存在し、国の内外を問わず連携して有益な奉仕活動をしています。

ロータリーバッジが発しているメッセージとは

- 私を信用することができます
- 私を頼りにすることができます
- 私は信用に値します
- 私は受け取るよりも多くを与えます
- 私はいつでもお手伝いします

このメッセージは長年にわたるロータリーが勝ち得た信用の証 であります。

世間から信用され続けることが、ロータリアンとして私たちの責務であることを、今以上に肝に銘じなければならない。

これは元R I 会長のロバートR・バース（1993=1994年）スイス・アーラウRCの言葉です
因みにこのときのR I テーマは “Believe in what you do. Do what you believe in”

「行動は信念を、信念は行動に」であります。理念を持ち、実践せよとっています。